

久々野多目的センター「虹流館くぐの」完成

こうりゅうかん



- ㊤テープカットのようす
- ㊦祝賀の風船を大空に放ちました
- ㊧館内の「つどいの広場」でさっそく遊ぶ姿

昨年度より建設を進めていた久々野多目的センター「虹流館くぐの」の完成式が、3月25日に行われました。

式典には、國島市長をはじめ関係者や来賓、市民の皆さんなど約250人が参加。テープカットに続き、参加者全員で祝賀の風船を大空に放ち、完成を祝いました。

その後、愛称「虹流館くぐの」命名者の表彰や地元特産のりんごジュースで乾杯が行われました。当日の内覧会では、さっそく子どもたちが館内の「つどいの広場」で遊ぶ姿も見られ、訪れた皆さんは「木の香りがいい」「明るい施設です」などと笑顔で話していました。

問合せ先 久々野支所
☎52-3111
広報ID 1009307

【お断り】今号は連載「輝く女性」は休みます。

広報 市長だより 75

大人の背中
高山市長 國島芳明

昭和35年の飛騨一宮水無神社式年大祭で雅楽器の一つ「笙」にデビューされた高校生がいました。その方は平成29年の同社式年大祭で総裁を務められた三木信之さん。57年ぶりに斎行された「飛騨の大祭」の総責任者です。今は亡き父上が、前回の式年大祭で大役を仰せつかったため信之さんは「家で代々継がれる笙を絶やしてはならない」と、その一心得で毎夜練習を重ねられました。以来57年間、笙を吹き続けた信之さんにとって、笙は人生そのもの。そして今回の大祭。奇しくも父同様、信之さんも大祭の大役を仰せつかりましたが「笙をどうするか。総裁と笙の二股はできない」と悩む中、長男が一言「お父さん、笙を買ってきたから」と。

「私は笙を継げるとは一言も息子に言ったことはありません。まさか継いでくれるとは」

目を細め、こう語ってくれました。結果、信之さんは総裁として、長男は笙にデビューされ、見事に大祭を斎行。父と長男が脈々と受け継がれる歴史と伝統を受け継いだ瞬間でした。

57年の歳月は突然訪れることはありません。毎日のこつこつとした積み重ねの結実です。大人の背中を見て子どもは育つ。生き様の連鎖を背中で伝えることは尊いことと言わざるを得ません。

春になり各地で祭が始まります。その祭の担い手、いずれにも、大人の背中を見て受け継がれた生き様があることを私たちは忘れてはなりません。

市長室へようこそ

●市民と市長の面談日

4月12日(木)
午前9時～11時45分
※事前にご予約ください



また、始業前の時間も市役所の市長室を「市民と市長の対話の場」として開放しています。お気軽にお越しください。

●開放時間

午前7時～8時30分まで

※出張や特別な行事がある場合は除きます。
※市ホームページで市長の週間スケジュールを公開しています。

●市長室直通FAXもご利用ください
FAX☎32-7000

問合せ先 秘書課 ☎35-3130

ケーブルテレビの番組「ハイ、市役所です」はインターネットでもご覧いただけます。
市ホームページ「行政情報」の動画コーナー

高山市公式YouTubeチャンネル 検索

編集・発行/高山市総務部広報情報課

〒506-8555 岐阜県高山市花岡町2丁目18番地
TEL/0577-32-3333(代)
FAX/0577-32-7000(市長室直通)
FAX/0577-35-3174(広報情報課直通)

E-mail/kouhou@city.takayama.lg.jp

HP/http://www.city.takayama.lg.jp/
携帯用HP/http://mobile.city.takayama.lg.jp/
防災行政無線の内容は電話でも確認できます
☎0577-35-6000